



# 福祉と住環境を考える ふくてっく

2003年 3月  
第51号

特定非営利活動法人  
ふくてっく

559-0034大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 11F Iビル  
TEL/FAX 06-6614-6800 ホームページ http://www.osakacity-vnet.or.jp/link/hukuteku/

## 講座開催報告

### ◆住宅改善士養成講座

(株)日本アビリティーズ社が主催する「住宅改善士養成講座」をふくてっくが委託を受け、昨年(2002年)2月24日の3日間行った。この養成講座は、日本アビリティーズ協会の会員を主な対象とし、高齢者や障害者の住宅改善を具体的に学び、実践に役立ててもらおうとするもので、できれば将来(株)日本アビリティーズ社のネットワークの中で、実際に活躍してもらおうという狙いもある。

参加者は北は東北地方から南は九州までと、全国から集っており、職種はOT、PT等の医療関係者、福祉施設関係者、建築士等であった。講義は朝ご時に始まり夕方5時までと、3日間ハードなスケジュールであったが、受講生の皆さんは熱心で活発に意見を出し、我々もかなり充実感を味わうことが出来た。

◆スキルアップ講座  
住宅改修に関する人の「図の見方・読み方・表現の仕方」  
昨年の9・10月に実施した2回シリーズの講座で、山本と磯田さんが担当しました。

## 環境と緑

### 便利さよりも本当に大切なものを



1月定例学習会  
平成15年1月2日(土)  
山之内知恵子氏

今日は緑の大切さを知ってもらうために、現在の地球環境について話をしたい。

この冬はかなりの大雪に見舞われ、言われてきたような暖冬ではない。これは気候のバランスが崩れている現れであり、ヨーロッパや中国の水害や頻りに起る竜巻など世界各地で異常が伝えられている。地球規模で気温が上昇しつつある事は承知のりだが、これはCO2が増え、地球が着膨れ状態になっているのが第一原因だ。しかるに温暖化防止京都議定書の議決にもかわらず、CO2排出は一向に減らない。しか

も、最も排出している米国がその議決から脱退するという有様である。一方、例えば中国の地方部では月当たりの生活費が2000円程度のレベルだから、CO2排出を減らすようにもなかなか余地はないし、誰しも先進国並の生活を求めているのだ。だからこそCO2を吸収してくれる緑を増やす事が急務なのだ。

次にオゾン層にふれよう。オゾン層の破壊によって、大地に降り注ぐ紫外線は既にX線に近い。保健所が日光浴を勧めなくなってきたのはその為だ。シミの原因は100%紫外線と云ってよい。そしてそれはやがて癌へとつながる。オゾン層を破壊する物としてフロンの規制が始まっているが、発生したフロンがオゾン層を破壊するには5年を要している。逆に言えば、今頃規制したところでその効が出るのは5年も先の事で、もはや手遅れに近い。



続いては、環境ホルモン問題。最近の実証によれば、今の20代男性の精液に含まれる精子は正常値の25%程度に薄まり、その活動力も極めて弱い事が指摘されている。そんな恐ろしい現象の因子として環境ホルモン、なかでもダイオキシンがよく知られているが、実はダイオキシンを最も多く排出しているのが他なら日本なのだ。ごみを焼却処分するのが原因に違いないのである。わが国ではごみ処理に20兆円もの費用がかけられている事は、

地域からの地域福祉のあり方とその推進方策について一はじめに

分化しているため、狭間で生じている。  
・サービスの総合化、提供条件の緩和、対象者の拡大。その際、地域住民がサービスを考え、行政や民間の活動に活かせるような取組みが必要。  
・また、地域での自立生活には、福祉だけでなく、健康づくり、就労、住宅、教育など生活に関わる総合的な取組みが求められる。  
〔府健康福祉部地域保健福祉室地域福祉課  
続きは次号に掲載します〕

## 大阪府社会福祉審議会 会答申(平成14年 9月)の概要

これからの地域福祉のあり方とその推進方策について一はじめに  
・これからの福祉は、何か課題を抱えている人に対処するだけでなく、全ての人が「よりよく生きる」ことができるようにすることを目指すことが必要。  
・地域福祉の主役は、みなさん一人ひとり。小学校区を基本としながら、「広域」と「地域」が連携・協力してお互いを支えあう仕組みをつくる必要がある。  
= これからの地域福祉のあり方  
1 今なぜ地域福祉なのか  
① 地方分権の推進  
・これからは、地域に関わる様々な団体や人が集まっ

て、地域の課題に取り組む、住民自治を高めていくことが求められている。その第一歩となるのが地域住民の主体的な参加による地域福祉への取組みである。  
② 社会福祉制度の改革  
・福祉サービスが「措置」から「利用」へと転換する中、利用者本位の福祉システムを確立する上で、地域住民が主体となる地域福祉に大きな役割が期待される。  
③ 課題を抱える人々の多様化と見えにくさ  
・野宿生活者、リストラ等による失業者、虐待を受けている子どもなど様々な課題を抱える人々が増えているほか、引き続き重要課題である同和問題、外国人への排除や摩擦の問題などがある。  
・また、都市化の進展と地域住民の無視、無関心等により、これらの人が社会や地域から孤立し、見えにくい状況にあることが課題の解決を困難なものとしている。

行政だけの対応には限界があり、地域住民一人ひとりの理解と行動が必要。  
④ 総合的なサービスの必要性  
・これまでの福祉課題への対応は、原則、対象者に取り組み、制度も専門  
5月 5月10日(土)  
午後一時半〜五時  
場所 大阪市立社会福祉センター内会議室(予定)  
学習会 「NPO法案制定に関わって(仮題)」  
講師 松本 勝正氏

## 定例会のお知らせ

日時 4月5日(土)  
午後一時半〜五時  
場所 アミティ舞洲 研修室  
学習会 「バリアフリーあれこれ」  
講師 吉本昭氏  
ふくてっく会員

止が近い物ほど大に安売りされるのが常。葉なんか山盛りで大安売りされる社会はどこがおかしい。そもそも、葉で身体が治るのでなく、身体の治療力を信じたものだ。下痢や発熱は、それはそれで自然な反応であり、葉で症状だけを抑えてよいものか、考えてみよう。

指摘すればきりがない。24時間蚊取なんて、室内に農薬を散布しているようなものだし、カップ麺はその容器から確実に化学物質が溶けだしている。日本で売られている牛乳はヨーロップでは売れない代物なのだ。

環境問題についてあれこれと恐ろしい話をしたが、そこで緑の効用について述べたい。

第一には、空気の浄化作用である。例えば、クロチクがアンモニアを吸収するようになり、植物はそれぞれ何らかの有害物質を吸収する機能がある。大きな木が一本あれば、その周囲はほこりが少なくなる。また、緑を見ると目を癒す事ができる。実験によっても、パソコン作業からの視力回復に關して、緑の存在が大きく左右することが確かめられている。視界に緑がある場

合には脳からの波が多く発生し、そのために心がやすらぐということらしい。植物からは「気」が出てくる事も注目されている。そもそも、植物は動物と違い、自らが移動することができないために自身や種族を守るすべとして、独特の化学物質や不思議な力を発揮しているものである。そのような「植物の力」を賢く生活に活かす事が大事だ。植物を生活空間に取り入れる事によって得られるメリットは、①湿度を保つ、②身体を暖める、の2点である。身体が冷えるのと、思考力まで下がるのだ。

環境悪化や経済優先社会の横行は食料事情にも大きな陰を落とし始めている。狂牛病という、かかったら100%死に至る病も、結局は同種の生体を食べるような異常性に因があるのでないか。

わが国は、食料自足率が20%そこそこ。海外から供給される苗はターミネーター植物といって、種をつくらない。もし食料の流入が途絶えたら、1年で3000万人が死だらうという試算がある。そんな中で、毎日山のように捨てられる食料。美味しい空気や

水を手に入れる事も難しくなった。だいたい、食料が腐らない事をおかしいと思わないか。植物100%といつても、保存料が入っていないければ力じがはえるのが当たり前なのだ。便利だからといって、電化に頼るのも電磁波の恐ろしさは隠されている状況では、できるだけ避けるべきだ。いいものはとく不便であったり、扱いが難しい物だが、目先のデメリットばかり目を奪われずに本当のメリットを追求したいもの。私自身、こんな事にもっと早く気がついておればと、今となってはただただ悔しい思いである。

(記 中北 清)

### 講座開催のご案内

#### 第10回福祉住環境コーディネーター2級検定試験対策講座

テスト含む総講義時間33時間

受験にポイントを絞った講義+小テストで合格を目指します  
高齢者・障害者等すべての人が安心して暮らせる為に、21世紀の住環境を考える人材が必要とされています。人材育成の一貫である検定試験(6/29実施)の対策講座を、住環境の改善をじて、福祉社会の環境向上に寄与するNPO法人ふくてっくが主催します。

日時 4/12 4/19 4/26 5/17 5/24 5/31 (土曜日・6日間)

時間 AM10:30~PM5:30 (4/26のみAM10:30~PM1:30)

受講料 25,000円(テキスト代)

定員 30名程度

締切 4/9 (水)

会場 ATC (アジア太平洋トレードセンター) ITM棟 9階セミナールーム

住所 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟 9階

最寄駅 OTSニュートラム線トレードセンター前下車5分

ニュートラム線中ふ頭下車12分

問い合わせ・申し込み先

特定非営利活動法人 ふくてっく

FAX 06-6614-6800

TEL 06-6614-6800

(3/17~4/9の月・水・金AM11:00~PM4:00)

【研修部 清水 麗子】

### 子ども木工教室

#### キッズプラザ

2月2日(日) 11時30分キッズプラザに集合、平松さんをリーダーとして行動開始!準備に1時間半かかり、1時から始まりました。5名の子どもを相手に「ダルマ落し」作りのお手伝い。丸太をノコギリで切るのは難しく、親やスタッフ



フと一緒に頑張ってなんとか切れたものの、ゆがんだりデコボコになったりどの子も苦労しながらの作業でした。それでも仕上げに5色のテープを側に貼ると立派な「ダルマ落し」の完成となりました。新しい作品でちょっと大変でしたが、結としては満足いくものでした。

皆さんとは今回でおれになります。彼女には大変お世話になりました。ありがとうございました。ふくてっくさん、お疲れさまでした。

(木工部 光川 隼子)



### 齷齪アクセス アクセスティンギー Sailing for everyone!

#### 障害者スポーツから、生涯スポーツへ



2月定例学習会  
平成5年2月1日  
ふくてっく会員  
藤本 増夫 氏

講師紹介(自称)  
①誰かにはめられてボランティア活動を始めた、元カート乗りの中年ヨットおじさん  
②塩飽(しわく) 指物師  
③物好き中世交 史蘊蓄家  
④週末水上生活者  
⑤樹望塾 塾長  
⑥NPO法人大阪北港ヨットクラブ 副会長  
⑦セーラビリティ大阪 代表世話人  
⑧有限会社藤本木工所 代表取締役

私が28歳で高校を出た年

に父親が倒れ、5年に及んで半身不随の父を介護する生活経験を経て、障害者とも普通に接することができるようになった。  
私は家具屋だが、調べていくと、日本における洋家具づくりは、私の先祖にあたる塩飽の船大工が神戸の加納町で開業したのが始まりだった。5歳の時にレーシングカートにも関わったが、それはまさにモータースポーツの初期段階であった。そこで得た物造りに関わる人間関係が、今思えばアクセスティンギーにも役立つている。  
ヨットを始めたのは、5年前の事。世話になってきた主治医がヨットを購入し、その講習を受けるための人数集めに駆りだされたのがきっかけだった。そういえば、母親の係累は爺さんの代までは船乗りだったから、すぐに船に関する歴史にも興味を覚えて、海の交史や船造りの研究もはじめた。  
かつて島の民には陸の民

とは異なった行政圏が存在し、塩飽には自治権も認められていた。先にも述べたように、船大工こそ日本の洋家具の発祥だから、船と家具、そして建築に私のルーツがあることになる。  
大阪という町は港で成り立っている。近年、ヨットレースをじてオーストラリアやニュージールランドの人たちと交流が始まっている。以前からハンディキャップセーリングはやってきたが、4年前の3月に、メルボルン・大阪の4回目のスタートに参加する機会を得た。その時車椅子に乗った人が大阪までやってきて、アクセスティンギーという、たらいのような船を紹介したのだ。始めは、自治体や公共団体あたりがなぜかそれを受け入れようとしなかったが、大阪では港湾局の方々が熱心に動いてくれて、メルボルン市から大阪市が寄贈を受けるといふ事が実現した。これを舞洲スポーツセンターで預かるという事になるわけだが、成り行き上、その倒れ私が見るはめになったのである。  
セーラビリティとは、マリンスポーツをじて、障害者の自立や社会参加を支えようとする事を趣旨として

いる。  
そもそも障害者は、なんかしてあげようとする、いよいよ調子にのってしまいか、あるいはまいってしまいかのどちらかのような要は同じ目線でつきあうことが大切なのだ。私自身、難しい障害を持つ娘がいるのだが、親としては何をしてもいいか解らない。とにかく障害者を当たり前に受け入れる社会を創ることが求められている。そして、セーラビリティの活動にその答えが見えるのだ。アクセスティンギーは本来その事とは無関係だったが、これがびつたりだった。始めは、泣き叫んで嫌がっていた子供も、自分でもできる事を知るや目の色を変える。これはすごいと気がついた。  
2000年の全豪選手権への誘いがあり、大阪の障害者2人が参加、私も同伴する事となったが、驚いたのは先方の選手団を見たときだ。  
エイミーさんというその選手は、先天性四肢欠陥症で、足の指3本が自由になるだけ。ナバさんは首から上だけを動かすことができ、あごで電動車椅子を操作し、口にくわえた筆で絵を描くのである。明るく振

る舞う彼女たちを前にして持参したビデオで撮影する事もためらわれたほどである。そんな彼女たちにも特別なアクセスティンギーが設計されて創られるのだ。アクセスティンギーは健常者も障害者も、そして障害の種類や軽重にも関わりなく参加できるという特徴を持っている。  
昨年1月に大阪で世界大会を開いた。アクセスティンギーを紹介したグラハムレーナー氏や、エイミーさんも来日し盛大なパーティが催され、エイミーさんが足の指3本を操って見事なトランプットを披露した。  
現在、アクセスティンギーの活動はほとんど大阪だけに限られている。北港ヨットクラブの活動として、徐々に参加が増えていくので、今後益々いろんな形のボランティアを募集して行きたい。ヨットというと贅沢な遊びと思われがちだが、これは大変気安く楽しめる。また4月からはレインタル艇も用意される予定がある、是非試して欲しい。

ボランティア自身が参加して楽しめ、また感動できる機会を創ることが大切だが、セーラビリティではそのような感動や楽しみのほか、活動を供にする多くの仲間との交流をじて、また多くの歴史観を得る事ができる。  
「してやる」ボランティアでなく、自分にとって意義あるボランティア、みんなが仲間だという意識が大切だ。初めて参加する障害者はとく緊張するもの。そんな時にほっとして話ができる雰囲気をつくる事も大事。大阪には、そんな暖かい空気があるようで、そんな所が大阪でしか進んでいない理由かもしれない。  
このアクセスティンギーがもう一つ普及しないのは輸入コストがやや高いという問題がある。一方、わが国にはかつて全国に大に供給されて、殆ど使われることなく倉庫に眠っているオプトミストティンギーという物がある。私はこれに少し手を加えてアクセスティンギーのように誰でも簡単に操作できて安全な艇に生まれ変わらせるプロジェクトを秘かに準備している。  
日本はそもそも海洋国家だった。もって海や川を活かしたまちづくりが必要である。海や川に背を向けないまちづくりを様々な局から見極めて活動を広めて行きたいものだ。  
(記 中北 清)